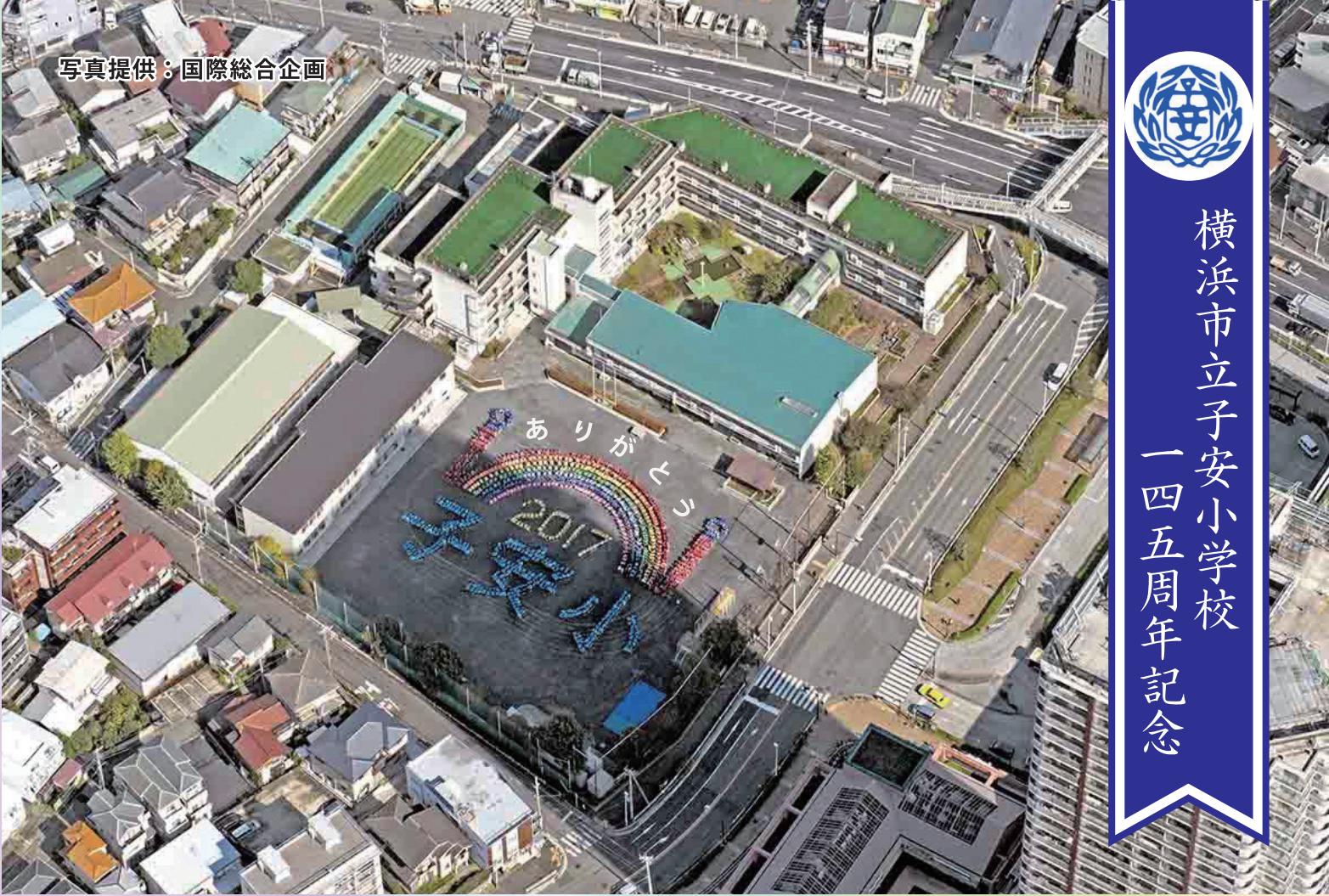




横浜市立子安小学校  
一四五周年記念



写真提供：国際総合企画

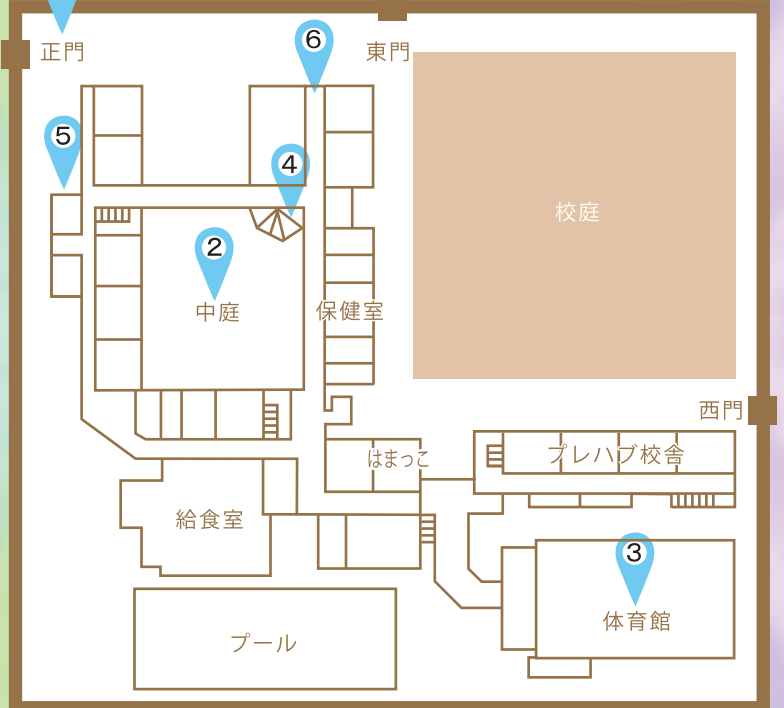
子安小145年間ありがとう  
伝統あるバトンを みんなで 未来へつなげよう!



平成30年1月19日 横浜市立子安小学校 PTA 移転事業実行委員会編集 / 児童数 997名・家庭数 801 (男児 503名・女児 494名)



3 ウィンターコンサート 平成29年度特別合唱クラブ  
毎年、子どもたちの透明感ある美しい歌声が、寒い季節にホッと心あたまる感動を運んでくれます。歌詞に耳を傾けると、力強いメッセージが胸に響きます。みんなで心をひとつに歌いあげ、合奏する姿に、その年の成長を実感させられる、年末の節目となる行事です。



2 中庭  
矢印型の池は、南の方向を指しています。金魚や亀が、穏やかに過ごしています。カルガモの親子が住み着いたこともありました。



1 ニノ宮金次郎の銅像  
登校する児童をいつも見守るようにたたずんでいます。金次郎さんも新校舎へ移設され、更に勉学に励みます。



4 シンデレラ階段  
いつからか、児童だけの通行が禁止になりました。少しあこがれの存在のようになっています。

子安小学校の心象  
こやすしうがっこうのふうけい



6 ステンドグラス  
国立科学博物館、交詢社の花鳥大窓の図案で有名な小川三知氏の作品で、大正時代に作られました。昭和57年の改築時に森勇三氏によって修復され、今も優しい光を放っています。午前10時～11時頃が一番きれいに見られます。



5 虹の橋  
航空写真のモチーフになりました。「3歩で渡りきると願いが叶うよ!」是非、挑戦してみてください。



145年の伝統を引き継ぎ  
子安の「まち」とともに創る  
もう一つの故郷  
子安小学校校長 富生和郎

子安小学校が子安学舎としてこの世に生まれた145年前(明治6年)という時期は、日本が開国してまもないエネルギーに満ち溢れた時期だったのではないかと思います。子安小学校に関わる昔の話を聞く度に、まちの人々の活気と子安小学校への思いが100年以上の時を越えて伝わってきました。

明治27年、一之宮神社近くの入江川のほとりに最初の引越しをしました。大正12年の関東大震災で大きく傷ついたため、大正15年に地震や火災に強い鉄筋校舎が建てられたのでした。横浜大空襲の猛火にも耐えた校舎は焼失した他の小学校の児童も受け入れるなどして地域で大きな役割を果たしていました。

今から36年前(昭和56年)老朽化した校舎を全面的に建て替えて現在の校舎が建てられました。現校舎になってからもそれぞれの時代の子どもたち、保護者、地域の方々に子安小学校は愛され歴史を紡いできたものと思います。

さて、今年(平成30年)の4月にはいよいよ現校舎にお別れをし、新しい校舎へ移転します。145年の重厚な



▲大正時代から引き継がれた建具の鏡で、身だしなみを整えてから、校長室を出ます。

歴史を胸に私たちは新たな歴史のページを開こうとしているのです。今年度のウィンターコンサートで特別合唱クラブと共演させていただいた「天までとどけ」の歌詞に「懐かしい風景に再び巡り会えた そんな気がする君の胸にはるかな故郷の風」という部分があります。住む場所が変わるけれど、新しいところにも自然と人々が創り出す故郷を感じる時が必ず来ると信じているのではないかと思います。

新校舎に移っても子安小を愛する皆さんとともに、もう一つの故郷となるような温かい学校を創っていきたいと思います。これまでと変わらずご理解と支援をお願いいたします。

子安小学校創立145周年に寄せて



大切な場所  
子安小学校PTA会長 木村 健  
(平成元年度卒業生)

幼少期の私にとつて子安小学校は憧れの存在でした。家の玄関をあけるとすぐ目の前に学校が見えたため、ランドセルを背負ったお兄さんやお姉さんを見ては「早く学校に行ってみたい!」といつも考えていたのを思い出します。

小学校時代は、楽しかった思い出ばかり。当時もドッジボールが流行っていて、給食を食終わると、いつも校庭に飛び出していました。昔はプレハブ校舎はなく、体育館の横にはトラックというスペースがあり、ドッジボールやバスケットボールをすることができました。

卒業してからは、学校に足を運ぶ機会が減りましたが、盆踊りや運動会などの行事があると、必ず友達を誘って遊びに行きました。

そして社会人になり、結婚をして子供が生まれました。保護者として二十数年ぶりに入った教室は、机や椅子が想像していたより小さく、とても驚いた記憶があります。娘の最初のクラスは、1年5組。

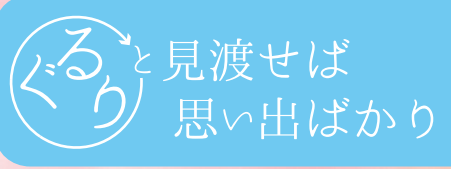


実は私も1年5組で、教室の場所もまったく同じでした。学校との縁を感じた瞬間です。

小さな頃から毎日眺めてきた子安小学校。その姿は変わりましたが、見え方は自分の成長とともにいつも変わっていきました。私にとつて子安小学校は自分の成長を感じられる場所であり、また自分を支えてくれた場所であつたと感じています。

あたり前だった景色が変わってしまふのは物寂しさもあります。でも、これからもたくさんの方々の心の中で、子安小学校が大切な場所としてあり続けてくれるのではないかと思います。

子安小学校を360度ビューで探検しよう!  
移転後、WEB上で公開予定。  
思い出の校舎をスマホやパソコンで見ることができます。



360





## 子安小学校の歴史

1872年 145年前 子安学舎 誕生

明治6年10月、第3大区4小区子安村に子安学舎が創立されました。  
現在の「一之宮神社」さんの敷地内に碑があります。

1894年 123年前 尋常子安小学校となる

明治27年1月、橋樹郡子安村大字村入江川第1478番地に移転。  
現在の「一の宮写真館」さんより第二京浜側の場所になります。度々、改築工事が行われていました。

1926年 91年前 鉄筋校舎設立（すぐに木造校舎の増築）

大正15年（昭和元年）、現在の新子安の場所に移転しました。  
産業・地域開発が進み、児童数も増加する一方でした。鉄筋校舎が落成した3年後には木造平屋で1教室、次いで昭和6年には木造2階建て11教室が増築されました。それでも足らず、1クラス70名以上というクラスが多くありました。  
低学年では、午前と午後の2部授業が行われ、ひとつの教室を2クラスで使用する事もありました。教室の照明も、鉄筋校舎1階の限られた教室だけに設置があっただけでした。  
昭和10年代には児童数は3000人を超え、昭和11年に創立された白幡小学校に学区分離したものの、2部授業は継続せざるを得ませんでした。

昭和時代



▲1932年（昭和7年）鉄筋校舎と木造校舎



▲1940年頃（昭和30年頃）運動会の様子



▲1972年（昭和47年）創立100周年記念航空写真

1982年 35年前 現在の校舎が完成

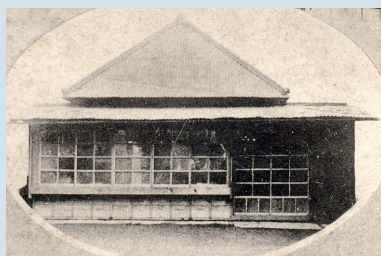
昭和57年、待望の新校舎が完成しました。校内を歩いてみると、至るところが凝った造りになっていることを実感できます。児童数の増加により、バスケットコート場所に平成25年にプレハブ校舎が増築されました。

2018年 3か月後 新校舎へ移転

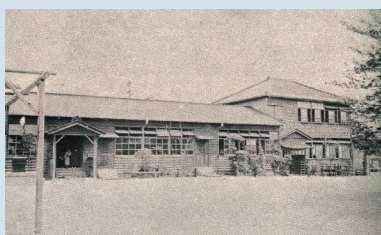
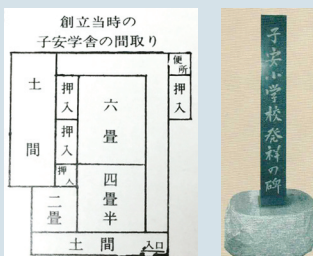
ガラス窓に囲まれた、美しい校舎の建設が急ピッチで進んでいます。  
平成30年、春の完成をおたのしみ！



▲2003年（平成15年）映画『ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京SOS』に登場



▲145年前の子安小学校「子安学舎」



▲尋常子安小学校



▲当時の運動会の様子



▲横浜初？の鉄筋校舎



▲昭和30年頃 3年生の学級写真。写真協力：牧田みどりさん



▲校舎と周辺の様子

エピソードのご寄稿、ありがとうございました。

プレハブ校舎が建つ前のバスケットボールがあった頃の話です。6年生の頃、お昼休みになると毎日のようにクラスのみんなでバスケットをしていました。私は、バスケットが苦手でゴールを入られなかったこともないのに毎日みんなが誘っていました。

ある日、バスを受け取った私は思いきりボールを投げると、なんとスリーポイントシュートを決めたのです。大騒ぎで喜んでくれた優しい6年2組のみんなは一生涯の思い出です。（安未蓮）

## 平成～現在

現在の校舎で  
過ごした児童の  
エピソード

▲当時は生徒の数が多く、1クラス50人以上で、1組から9組までであり、当然教室がたりず、午前と午後の2部に分けて授業を行いました。校舎の中心には池に石橋があり、花や木が茂って小さな庭園という感じでした。周りに大きな建物が多かったので、屋上から見る海や山の景色は今も目に浮かびます。もちろんプールなどなかったけど、校庭は広く、いろんな遊びをして楽しめました。今から60年前のことです。（Y・K）

▲わたしは、子安小学校に来て大きな場所をみつけました。そこは、ステンドグラスです。大きな理由は、1年生のとき、ステンドグラスの場所をおとって、光がさして、とてもきれいにみえたので、すきだと思いました。新しい学校ができて、すきな場所をみつけてみたいです。（三年 仲地りあな）

## 1950年頃

生徒が多くて  
授業は午前と午後  
の二部制

▲写真は昭和30年初頭で、3年生の時のものです。当時は、役員を務めるお母様方が、遠足の際も着物で同行してくださいました。時代を感じますね。写真に写っているステンドグラスが、孫が通う現校舎に残されていて、また新校舎にも大切に移設されると聞きました。多くの子供達を見てきたステンドグラスを曾孫も見られるのでしょうか？楽しみです。（牧田みどり）

## 世代を超えて

## 子安小学校の思い出エピソード

▲戦前からある学校ならではののですが、父と私と子、三世代でお世話になりました。偶然なのですが、私は旧校舎（木造校舎）最後の卒業生でした。そして今回、子供もこの校舎の最後の卒業生：とても縁を感じています。私も学校を訪れると、ステンドグラス、以前は中庭にあった虹の橋、二宮金次郎の像、どれも懐かしい思い出です。ありがとうございました。（T・T）

## 1970年頃

木造校舎から  
現在の校舎へ  
建て替え時期

▲私は古い校舎を現校舎へ建て替え中の小学校生活でした。新校舎（現校舎）を見る事は出来ませんでした。その後、長男が通い、そして次男が現校舎最後の卒業生となる事に不思議な縁を感じます。  
古い校舎では今のプール側の門から登校、左手に小便小僧の池。現体育館は木造校舎でストロップのやかんで牛乳パックを温め、現校舎はプレハブ校舎で給食室建て直しの為お弁当。昼休みは屋上遊びや、のぼり棒も人気でした。芳賀深雪（旧姓：白石）



▲木造の前校舎で。写真協力：依知川孝さん

▲私のお父、私、息子と三世代。時をこえてたくさん思い出をくれたあなたは新しい時代を作るために生まれ変わるのです。今までおつかれ様でした。そして、本当にありがとうございました。（R・A）



▲私が卒業時、現校舎の前の校舎を建替直前でした。思い出作りにと当時の先生方の粋な計らいで校舎中の壁や床に全生徒で落書きをした記憶があります。私は現校舎では学ぶ：いや、遊ぶ事は出来ず、ピカピカの現校舎完成時、近くを通る度にうらやましく思ったものでした。  
そして来春、その現校舎ともお別れ。時の流れを感じると共に、私自身の年齢の流れも感じます。（依知川孝）

